

## アメリカの小さな町で育った——見えない英語の文法

英語は語の形態的な変化が乏しく、語順やさまざまな文型・構文が文法的な関係を表す重要な手段になっています。それらについては英文法書に多くの記述がありますが、英語の表現の中には文法的な構造や他の表現との文法的なつながりがすぐには見えない／見えにくいものも存在します。ここではそのような例を二つとり上げることにします。

まず初めにクイズですが、次の(1)–(3)のうち英語として正しいものはどれでしょう：

- (1) I grew up in a small town in America.
- (2) I grew up in a small town America.
- (3) I grew up in small town America.

一見して(1)は正しい文だとわかるでしょうが、(2)(3)は・・・？ これらは文の後半の in 以下の部分がちょっとケッタイな形に見えますが、このうち(3)は実際に用いられている形です。これは small と town をハイフンでつないで1語にすると、英語としてより適格な形になります：

- (4) I grew up in small-town America.

アメリカ人のインフォーマントによると、“small-town America” は “the part of American society which lives in small towns” を表すとのこと。この small-town は文法的には後続の名詞 America を修飾する形容詞で、名詞句全体で「アメリカという国を構成する諸地域の中の小さな町の部分」(すなわち、「アメリカの小さな町」) という意味になり、これは次のような「限定形容詞＋地域名」の形で固有名の限定を表す場合と同じことになります：

- (5) North America, French Canada, upstate New York, suburban Tokyo

(3) のような形が英語で用いられているのを知ると、「英語には本当に文法なんてあるのか」と疑いたくなるかもしれませんが、いろいろな表現の背後には意外な規則性が隠れていることがあるのです。

次に、別の例を考えてみましょう：

- (6) He needs help in solving a math problem.
- (7) He needs help with solving a math problem.
- (8) He needs help solving a math problem.

(6)–(8) はいずれも「彼は数学の問題を解くのに人の助けを必要としている」ということです。この場合、(8) は(6)(7)における前置詞 (in, with) が省略されたものと解することもできますが、(8) を意味の面から観察すると、solving a math problem という動詞-ing 節が表す「彼が数学の問題を解く」という事柄とそれに先行する help という動作行為名詞が表す「人がそれを助けること」という事柄は同時進行のものであることに気づきます。このように、「動詞-ing 節」が表す事柄と「その動詞-ing 節に先行または後続する部分」が表す事柄の同時性は次の場合にも見られます：

- (9) People with insomnia have difficulty falling asleep or staying asleep.

(9) は「不眠症の人は寝入りや眠りの持続に困難をきたす」ということで、falling asleep or staying asleep という動詞-ing 節が表す事柄とそれに先行する have difficulty という述語動詞句が表す事柄が同時に生じることを表しています。さらに、次のような分詞構文や動名詞構文の場合も同様で、いずれも主節と後続する分詞・動名詞(＝動詞-ing 節)の節が表す事柄は同時性を持つことがわかります：

- (10) John walked away, humming. (ジョンは鼻歌を歌いながら歩いて立ち去った)
- (11) Mary emailed me saying she can't come today. (メアリーから今日は来れないというメールがあった)
- (12) All of us enjoy playing computer games. (私たちは皆コンピュータ・ゲームをするを楽しんでいます)

(10) は主節の表す動作と分詞節の表す動作の同時進行、(11) は主節の表す行為が行われたのと同時に分詞節の表す伝達行為が行われたこと、(12) は動名詞節の表す活動と主節の表す経験が同時的であることを、それぞれ表しています。また、言動や行動の真意を説明・解説する機能を持つ行為解説の進行形 (interpretive progressives) を含む文の場合も、主節事象と従属節事象の同時性が存在します：

- (13) When he said that, he was not telling the truth. (彼がそう言ったとき、彼は本当のことを語っていなかった)

(13) は主節の進行形が従属節の表す発言の真意を解説する働きをしていますが、時間的には従属節と主節の事象は (完全に) 同時のものです (すなわち、saying that という事柄と not telling the truth という事柄は時間的に重なっているものです)。

(6)–(8) の検討から始まって話が広がっていきましたが、(8) のような何でもない表現であっても他の種々の表現との (見えにくい) つながりが見いだされることがあります。形式の類似が意味の類似と関連づけられる可能性があるということです。